当社ＬＮＧ基地の設備容量及び余力情報等

１．　当社 LNG 基地の設備容量

区分	LNG 受入桟橋[*1]	液化ガス貯蔵設備[*2]	ガス発生設備[*4]
容量等	・容量：217,330m^3 ・載貨重量トン数 ：101,000t ・全長：315.20m ・型幅：52.00m ・喫水：12.00m	●LNG 貯蔵設備 ・泉北製造所[*3] ：1,665 千 kl ・姫路製造所　：740 千 kl 合計 2,405 千 kl ●LPG 貯蔵設備 ・泉北製造所[*3] ：136 千 kl ・姫路製造所　：12 千 kl 合計 148 千 kl	●LNG 気化器 ・泉北製造所[*3] ：1,816 千 m^3/時 ・姫路製造所　：855　千 m^3/時 合計 2,671 千 m^3/時 ●LPG 気化器 ・泉北製造所[*3] ：125 千 m^3/時 ・姫路製造所　：26 千 m^3/時 合計　151 千 m^3/時

[*1]：当社 LNG 基地で受入可能な最大船型を表します。
但し、LNG 受入桟橋により、受入可能な船型が異なります。

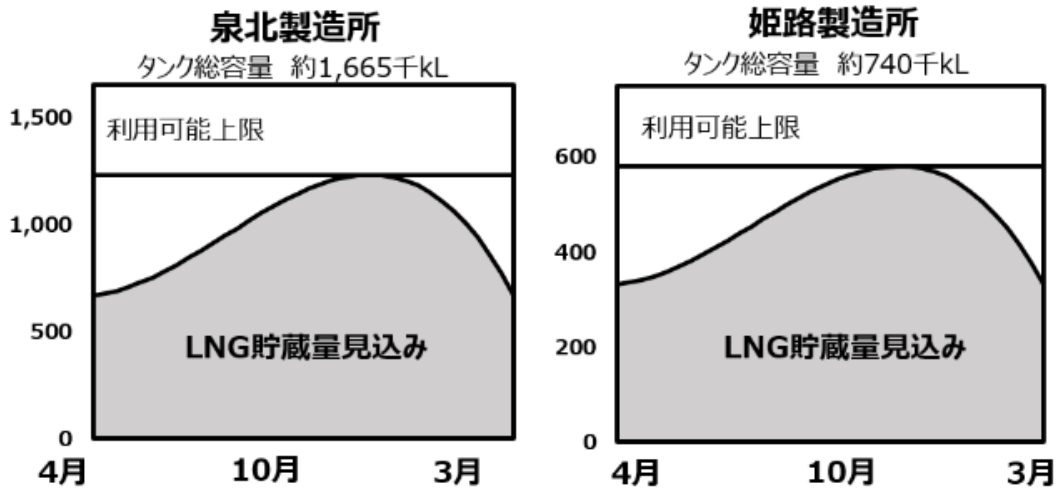
[*2]：物理的な液化ガス貯蔵設備の容量を表します。但し、貯蔵管理の上限等がある為、
運用上の貯蔵可能量とは異なります。

[*3]：泉北製造所第一工場、第二工場の合計値を表します。

[*4]：LNG 在庫熱量、設備の整備計画等により、ピーク日の時ガス生産能力は変動します。

（令和 8 年度 製造計画[2026 年 3 月 17 日届出］等に基づき作成）

２．　LNG 貯蔵余力のイメージ（2027 年度）*1 *2

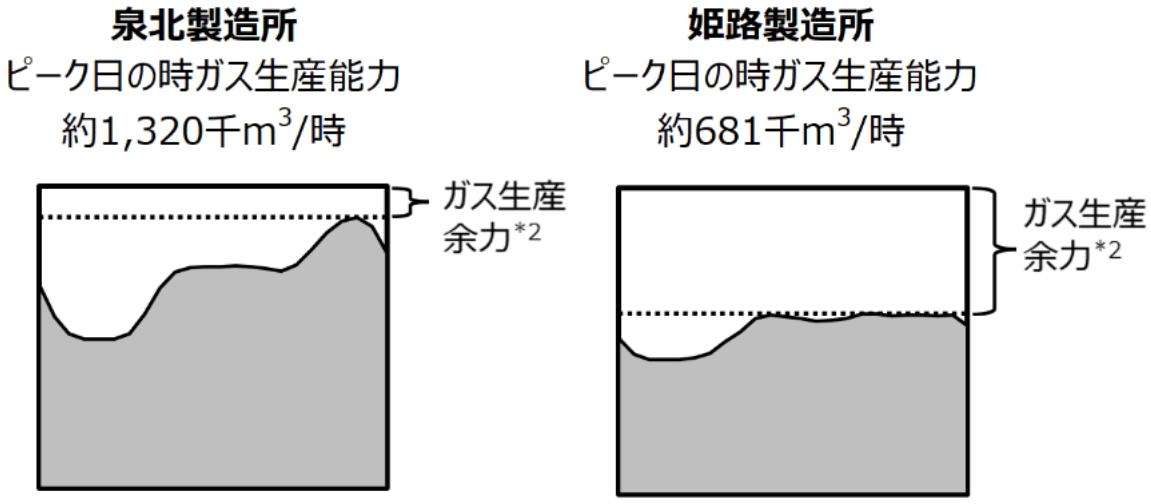


*1：上図は当社の LNG 貯蔵余力イメージを表したものです。LNG 貯蔵量見込みについては、当社の LNG 受入状況、都市ガス・電力の需要動向、定期的または予定外の設備工事、当社以外の利用者の基地利用状況等により変動する可能性があります。

*2：2026 年 7 月末時点で算定した 2027 年度の泉北製造所および姫路製造所におけるルーム貸し余力はございません。また、ルームシェア方式の場合、年間で 264 千 kl（ＬＮＧ船 2 隻分程度）を受け入れるモデルでの、下記のご利用パターンにおいてご利用が可能な見込みであり、それ以外の条件においても、条件次第でご利用が可能な場合があります。
詳細に関しましては別途お問い合わせください。
（令和 8 年度 製造計画[2026 年 3 月 17 日届出] 等に基づき作成）

［ご利用パターン］
- 132 千 kl/隻（44.2MJ/m3 以上）の LNG 船を年間 2 隻受入れるものとします。
- 高在庫が見込まれる期間は、当社から LNG 貸出を行い、高在庫期間後に LNG を基地に受入れ、返却いただくものとします。
- 年度終了時に LNG 在庫が 0 となるように、一定の割合で払出すものとします。

３．　ピーク日におけるガス生産余力のイメージ（2027 年度）*1



*1：上図は当社が最もガスを生産する日（ピーク日）のガス生産余力イメージを表したものです。

*2：2026 年 7 月末時点で算定した 2027 年度のガス生産余力は、泉北製造所で約 120 千 m³/時、姫路製造所で約 272 千 m³/時です。なお、ガス生産余力は都市ガス・電力の需要動向、定期的または予定外の設備工事、当社以外の利用者の基地利用状況等により変動する可能性があります。

（令和 8 年度 製造計画[2026 年 3 月 17 日届出] 等に基づき作成）

４．　受入可能な LNG の品質

熱量*1	■原則として、受入 LNG の熱量*2 は以下の基準値以内とします。 ・40.0　～　46.0 MJ/m3N
組成*1	■受入 LNG の組成は主に以下の成分で構成されていることとします。 ・メタン、エタン、プロパン、イソブタン、ノルマルブタン ■以下の成分等を含む LNG の受け入れに関して、基地運営に支障が生じる可能性がある場合、受入を拒否することがあります。 ・イソペンタン、ノルマルペンタン、酸素、窒素、二酸化炭素、 アルゴン、硫化水素、全硫黄、その他不純物*3

*1：受入可能な LNG の熱量・組成は目安であり、個別の利用条件や LNG を受け入れる桟橋によって基準が異なります。また、熱量調整余力やタンク運用実態等により、上記の範囲内であっても LNG 基地利用を承諾できない場合があります。

*2：熱量は気化ガス体積当たり（m3N）の発熱量を表します。

*3：固形物、水分、油分、微量元素：V、Pb、Cl、Hg 等、ジエン類、オレフィン類、
有害成分：ベンゼン、トルエン等、他。

５．　配船計画のおおよその策定時期

当年度の年間配船計画については、概ね、前年度 6 月末より策定を開始し、前年度 2 月末までに策定を完了します。

但し、上記はおおよその策定時期であり、具体的な配船計画策定時期は様々な LNG プロジェクトによって異なります。

以上